



市報6月号・市長の重点施策「行田市の好循環」とは。

斉藤 博美（日本共産党）

本市の課題を踏まえた新たな政策の詳細な内容や考え方について聞く。

●17号バイパスの高速道路化について

問 現在進行中の上尾道路開通後に期待される効果と比べ、さらなる効果のごつあると考えるか。

答 本市は、首都圏までほど近く豊かな観光資源を有するが、交通アクセスの利便性は良いとは言えない。高速道路化は圏央道との連絡が容易になり、アクセスが飛躍的に向上すると考える。

●雇用を生み出す開発、企業誘致について

問 本市は長年、企業誘致の必要性から県企業局と工業団地の整備を進めてきた。市長が新たに考える企業誘致とは具体的に何か。また、その手法は。

答 さらなる企業誘致を進め、新たな産業団地の整備が必要である。県な

どの関係機関へ積極的に働きかけていく。

●3歳未満の保育の無償化、おうち子育て支援金について

問 国に先駆けて実施することは大変評価するが、特に小さな子どもの支援に目を向けた理由は何か。

答 少子化対策として効果的であると考えた。

●小中一貫校で英語のできる行田つ子について

問 市長の考える教育の質を高め子どもを通わせたい学校とは。また、小学生からの英語教育とは本市の既存政策と何が違うのか。

答 9年間を見通した教育カリキュラムで中間ギャップの解消など学年間の滑らかな接続と、中学校教諭の専門性を生かした教科担任制を小学生に導入する。また、異学年交流による社会性の育成などが期待できる。

利根川新橋とは、利根大堰と刀水橋の間、約10km区間のおよそ中間点の熊谷市と群馬県千代田町をつなぐ新たな橋のことで、完成すると既存の橋の渋滞緩和や災害時の広域避難路となり、地域の発展に寄与する。本事業が早期に実現するよう強く推進すべきでは。



利根川新橋の早期実現

梁瀬 里司（令和研究会）

問 県内で購入費補助を実施している自治体の状況を調査研究するとともに、近隣自治体の動向等を注視していきたい。

●さきたまテラス施設の拡充

問 施設を利用するにあたり、木陰がなく暑い、休むところがないなど、多くの意見がある。そこで施設を拡充し、利用しやすく、喜ばれる施設にすべきではないか。

答 現時点では改修等の予定はないが、施設を運営する行田おもてなし観光局と連携し、寄せられた意見を参考にしながら、一層利用しやすい施設となるよう努めていく。

●ヘルメット購入費補助

問 本年4月の道路交通法の改正により、自転車利用者のヘルメット着用が努力義務となったが、ヘルメット購入費の補助を行うべきではないか。

答 県内で購入費補助を実施している自治体の状況を調査研究するとともに、近隣自治体の動向等を注視していきたい。



わらアートの復活と古代蓮の里冬季来場者の増加に向けて

香川 宏行（令和研究会）

古代蓮の里のにぎわいを創出するために提案した田んぼアートは、関係者の様々な努力と協力のもと、ギネス世界記録に認定されるまでになり、今では夏の観光スポーツとなった。しかし、それ以外の季節は、来場者を増やす取組に課題を抱えているように思われる。

問 冬場のにぎわいを創出するため、わらアート事業を復活してはどうか。

答 平成26年度から4年間実施したが、一定の効果を上げたため終了した。現在は、フラワーアートを含めたイルミネーションを実施するなど、来場者の増加を図っている。

問 一定の効果を上げたとは、ごついついことか。

答 県内初の取組として注目を集め、来場者が増加したが、年数を重ねる中で様々な課題も出てきたため、総合的に判断し

て、事業を終了した。

問 様々な課題とは何か。

答 費用面のほか、製作維持に係る人員確保、安全面などが課題となった。

問 当時は巨大なわらアートだったが、課題があるのであれば、巨大にこだわらなくてもよいと考えるがごつか。

答 小さくすれば課題は解決できるが、話題性や集客効果が望めるのか、また、既存事業との組み合わせなどを含め、設置の可能性を整理したい。

問 田んぼアートからの連続性や規模を縮小しても事業の継続性が大切であると考えるがごつか。

答 事業の組み合わせや継続性が効果を生み出すことはあると考える。事業の復活については、指定管理者であるいきいき財団との協議も必要となるため、規模なども含め、検討したい。

答 県内初の取組として注目を集め、来場者が増加したが、年数を重ねる中で様々な課題も出てきたため、総合的に判断し